



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 236

2016/06/01

今月の一枚

今月のイベント

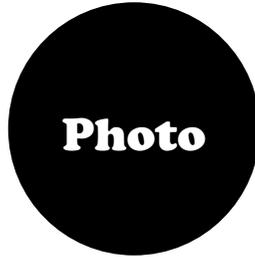
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 気持ち悪い生き物は？
02. 木彫り熊の心地よさ



今月の一枚



「やっぱり可愛いね」

表紙写真・文／町田善康

先日、7種類の生き物で争われた「美幌町の可愛い生き物、人気投票」の結果を発表します。1位はモモンガ。2位はシマリス。3位はユキウサギ。そして、フクロウ、キタリス（エゾリス）、ヤチネズミと続き、7位はミンクでした。ほぼ予想通りの結果です。

人気投票の上位 Best 3 をそろえて展示会をやったら、さぞ可愛いことでしょう。いずれ、そんな可愛い展示会を実現させたいと思いますので、お楽しみに！

Event. 今月のイベント

企画展「寄贈資料展」 6月4日(土)～26日(日)

プチ工房「手作りうちわ&しおり」 6月9日(木),16日(木)

博物館講座(自然編)「観覧券モモジロコウモリが水辺で暮らす記」 6月18日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「手作りうちわ&しおり」

- 6/9(木),16(木)10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館 1F 講座室
- 材料費(100円) ●福田春美(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(自然編)「観覧券モモジロコウモリが水辺で暮らす記」

【講演会・観察会】 ●6/18(土)18:30-21:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室,博物館前用水路 ●保険料(100円),野外で活動できる服装,長靴,雨具,虫よけ ●近藤憲久氏(道東コウモリ研究所) ●美幌博物館へ電話申込み(6/1-6/15)。キャンセルは6/15まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員30名で締切。当日雨天の場合は講演会のみとなります。講演会のみ参加も可能で,参加費は無料です。

美幌博物館を無料で楽しめます！

6月15日(水)より美幌みどりの村施設を利用される場合、美幌博物館観覧料が無料となります。

【対象】

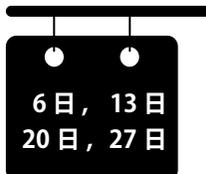
- ・美幌みどりの村キャンプ場,グリーンビレッジ美幌,エコハウスに宿泊申し込み利用申請をした方
- ・休憩施設スズランに利用申請をした方
- ・みどりの村が開催する講座や実習に参加した方

【方法】

宿泊,利用申請,講座参加の際に、博物館観覧券をお渡しします。

観覧券には有効期限がありますのでご注意ください。

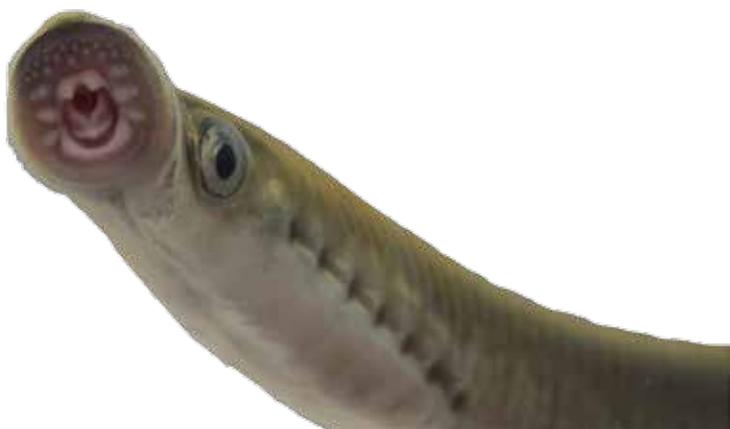
今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

気持ち悪い 生き物は？

写真・文／町田善康



美幌町内に暮らす、可愛い生き物については、本号の表紙で紹介させて頂きましたが、気持ち悪いと思われる生き物は何でしょうか。

ニョロニョロとした動き、口からは舌がペロペロ。とぐろを巻いて道の真ん中にいれば、飛び上がって驚くほど。へびを嫌いな人は、かなり多いはずです。博物館の職員でも、多くはへびが嫌いで、へびが出るたびに大騒ぎになります（私は平気なので、何がそんなに気持ち悪いのか、よくわかりません）。

さて、そんなへびを飼育するのは、なかなか難しいのですが、何か気持ち悪い生き物を展示してみたいと考えていました。

5月上旬、網走川で行った魚類調査の際に、へびにも似た生き物を捕まえました。その名は、カワヤツメ。博物館のへび嫌いの人たちに聞いたとこ

ろ、こいつならまだ大丈夫だということで、展示することにしました。

水槽に入れると、ニョロニョロと泳ぎ、吸盤のような口でガラスや底面に張り付きます。夏ぐらいまでの期間限定の展示になると思いますから、気持ち悪い生き物を見たい方は、博物館へ見に来てください。

ちなみに、このカワヤツメ。石狩市や江別市には専門の料理店があり、蒲焼や刺身で食べることができます。私も食べたことがあります。なかなかの味わいでした。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

木彫り熊の 心地よさ

写真・文／福田春美



先日、博物館講座（芸術編）「北海道の木彫り熊」を開催しました。5月を目前にして、当日の天気はあいにくの吹雪…にも関わらず、遠方からのお客様も複数おられ、木彫り熊は身近で興味深いテーマなのだなあと改めて感じました。

阿部吉伸氏による講演は、まず、木という素材の話から始まりました。「合成樹脂などの人工的な素材でできた製品が身の回りにあふれる現代、木で作られたテーブルを見つけると、つい触りたくなくなってしまいませんか？」その問いかけに、会場全体が大きくうなずきました。恐らくこれは、子どもも大人も同じように持っている感覚なのでしょう。太古の昔から木と共に暮らしてきた私たちには、木の心地よさが無意識のうちに心や体に刷り込まれているのかもしれない。

その後、北海道の木彫り熊発祥の

地・八雲町のエピソードや、そのルーツとなったスイスにおける歴史や現状などを学び、阿部氏所蔵の国内外の木彫り熊鑑賞タイム。…と、その中に、私物と同じものを発見しました！数年前、ある場所で出会い買い求めたものです。聞けば、このタイプの木彫り熊は足寄町で作られていたもので、大きさも様々あるそうです。材はエンジュで、外側が明るい茶色、内側が濃い茶色という特性を生かして制作されています。コロンとした姿が愛らしく、スリスリと手でなでるとなんとも安らぎます。木彫り熊の生まれた町がわかり、より愛着がわきました。

皆さんのお宅に眠っている木彫りの熊はいませんか。久しぶりにスリスリとなでてみてはいかがでしょうか。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



最近、大きな買い物をしてしまいました。それは、木でできたダイニングテーブルと椅子です。こだわって選んだので、高さはぴったり、座り心地も満点。スリスリスリスリ、気がつけば朝も夜もひたすらなでています。あとは、美味しい料理が作れるようになれば…バッチリなのですが！（福田）